

第3回

あび中

社会科通信

2020/6/19

エネルギーについて考える

2年生では、地理的分野のエネルギー問題について取り組んでいます。日本は世界の中でもたくさんのエネルギーを使う国ですが、なんと日本のエネルギー自給率は「10%」。低いと言われている食料自給率でも37%なので、いかに低いかが分かります。



今回の授業では「エネルギートラベラー」の教材を使って取り組みました。火力発電・原子力発電・水力発電・太陽光発電・風力発電の長所や短所を確認した後、「S+3E」という言葉を勉強しました。「S+3E」とは、S:安全性を土台として、E:安定供給、経済性、環境保全をふまえて日本の電源構成を考えることです。それぞれの発電の特色を考えながらベストだと思う電源構成を発表しました。いくつか紹介しましょう。

- 「火力発電:再生可能エネルギー:原子力発電=5:3:2」

理由は、たくさんのエネルギーを獲得できる火力発電を基本に、環境面を考えて再生可能エネルギーの利用を考えたから。

- 「火力発電:再生可能エネルギー:原子力発電=2:6:2」

理由は、CO₂をたくさん排出しないように、再生可能エネルギーを多くしたが、コストが高いため、火力や原子力発電の活用を考えたから。

- 「火力発電:再生可能エネルギー:原子力発電=2:3:5」

理由は、資源の少ない国なので、資源が少なくても済み、CO₂の排出が少ない原子力発電を基本に組み合わせたから。

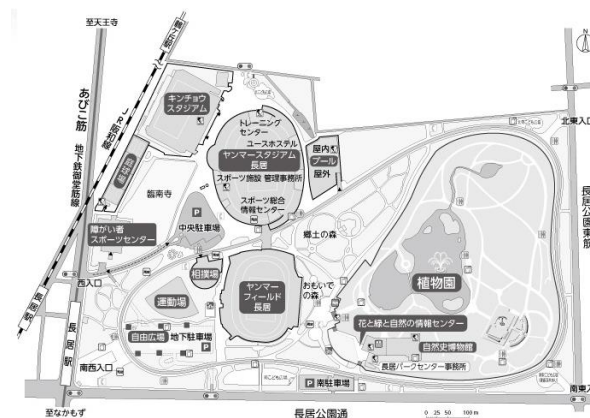
どんな状況のときでも対応できるようなエネルギーミックスを考えることが大切だと今回の取り組みで学びました。正解は1つではないかもしれませんが、持続可能な社会に向けてこれからも考えていきましょう。

近所フィールドワーク ～長居公園～

身近な憩いの場といえば、長居公園。休校中に散歩やランニングをした人も多いのではないのでしょうか。今回はこの長居公園の魅力を紹介합니다。

長居公園は、昭和初期の1928年、約66haの広い敷地につくられ、臨南寺公園と呼ばれました。太平洋戦争後には、なんと競馬場や競輪場もありました。今では本格的な運動公園として、サッカースタジアムに陸上競技場、テニスコートにプールなど、充実のスポーツ施設が勢ぞろい！実は相撲場だってあるんですよ。

また、長居公園内にある長居植物園には、花・木・ハーブなど約1000種類もの植物があり、季節ごとに私たちを楽しませてくれます。今の見頃は、やはり紫陽花。6月は「あじさいウィーク」開催中で、大阪市内最大級・約1万株の紫陽花が咲き誇ります。さらに、奈良時代の和歌集『万葉集』にも詠われた41種の植物に出会える緑道「万葉のみち」もあります。歴史を感じ、季節を感じる楽しみ、ぜひ味わってみてくださいね。



1年が一番昼の長い日がキター！！

6月21日(日)は夏至です。「夏至」というのは二十四節気の一つで、太陽が最も北に寄り、北半球では昼が一番長くなります。北極では太陽が沈まず【白夜といいます】、南半球では太陽が現れない現象【極夜といいます】が起こります。そういえば、午後7時になっても明るいなあ・・・と感じている人もいるのではないのでしょうか？

私たちの住む日本よりもっと北の地域ではさらに昼の時間が長くなり、スウェーデンなどでは日照時間が20時間近くに及びます。その反面、冬には夜の時間が長くなってしまいますので、短い夏を楽しむイベントとして「夏至祭(ミッドサマー)」が行われます。広場に集まり、大人も子どもも輪になってダンスを楽しんだり、ポテトやニシンのマリネ、季節のフルーツなどご馳走を食べたりするそうです。とても楽しそうですし、その地域の特性が現れていますね。

ちなみに、大阪では夏至の日に「蛸」を食べるそうです。昔は夏至のころに田植えを行っており、植えた稲の根が蛸の足のように四方八方に伸び、根付くようにと豊作を祈った風習でした。みなさんは、21日に蛸を食べるのでしょうか???

前回の社会科通信の答え：オーストラリアの面積はグリーンランドの面積の約3.5倍

